
消えた凶器

梅檀馨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

消えた凶器

【著者名】

梅檀馨

【ISBN】

97848772

【あらすじ】

ちょっととしたきつかけからトリックを用いたミステリを書いてみようと思い立ち、作ったのがこの作品です。

小説形式を取つてはいますが事実説明に偏つてるので、「よし解いてやるうじやないか」という情熱のある方、または細かい文章でも平氣だよ!という方にオススメです。

前 事件発覚と謎の提示（前書き）

前編にて問題文、後編にて謎解きと二つ形式にて展開して参ります。

少しでもお楽しみいただければ幸いです。

前 事件発覚と謎の提示

K町のビジネスホテルの一室で女性の遺体が発見されたその日も、町は最低気温マイナス15度という寒波に覆われていた。

マイナス15度ともなると空気が肌に痛く、鼻の粘膜が中でくつついてしまい、耳などを露出させているとともにすれば凍傷になる。ところがこの町ではこれが当たり前の冬であり、河川の水も今時期は氷や雪に厚く覆われる。K町は名づけての寒冷地帯に位置し、豪雪でも知られていた。

殺されたのは遠方の都会M市の商社に勤務する営業職の社員で、かねてより進めていた商談の為同僚3人と共にK町に出張しており、業務をこなしようやく帰社が適う前日の出来事だったという。

活気溢れるというにはほど遠いK町ではあったが、5階建てのホテルは小規模ながらも手入れが行き届いており、部屋は全てオートロックだった。窓はレバーで外に開ける片開き式。被害者の女性が泊まっているのは2階であり、窓は建物の裏側に面していた。

死亡推定時刻である午後11時はただでさえ泊り客が少なかつた上に、彼女を含む四人は翌日早くに出立するというので、午後8時40分頃には各自の部屋に入ったという。全員での外出は午後7時に一旦チェックインして以来、7時30分に食事に外に出かけ、かつきり1時間後に戻っている。偶然にもその日の泊り客は調査の結果いざれもアリバイが証明されて、最後には同僚3人が被疑者となつた。

遺体は鈍器のような物で頭を殴られており、死因は頭部損傷による脳挫傷。そう多くはなかつたが、外部に出血及び打撲痕が認められた。14平方メートル程度のユニットバス付きのシングルルーム。壁際に設置されたベッドではなく、中央の床に下着姿のままでうつ伏せに倒れて亡くなつていた。

発見されたのは、翌朝のチェックアウトに集合しないと同僚が不

審がつて見に行つた午前8時15分である。部屋の暖房はついたままで暖かかった。遺体の傍にはガラスコップが転がつており、床のカーペットも少しまだ濡れている。

鑑識の報告に拠ると、液体は被疑者の血液が少量、並びにごく微量にポリエチレンが検出されたものの、主成分は単なる水だという。部屋にはその他机に姿見、テレビに冷凍室付の小さな冷蔵庫が置かれていた。指紋は被害者のもの以外は発見されていない。犯人が拭き取つたものと思われる。

しかしここで、大きな問題が生じて警察は頭を捻つていて。凶器がホテルの内部及び被疑者の部屋からも荷物からも、被害者のそれからも見つからぬのだった。そして一階という低階層であるところから外部犯の可能性を考えても、窓の下の雪に何の跡もなく、ホテルの従業員の話からしても夜6時以降雪は降つていない。そもそも窓は内側からしつかり鍵が掛かっていた。ロビーからの不審な外部の訪問者がいなかつたとは、従業員が証言している。

また、館内の全ての非常口もまた内側からしつかりと鍵が掛かっていた。一階の端に設置された非常口の扉の外も念のために確認したものの、やはり足跡めいたものは見つからない。こんもりと積もつた柔らかい粉雪があるばかりだ。

そこで警察は同僚3人に標的を絞つて、被害者との関係の詳細や所持品の検査を行つた。

結果、それぞれ被害者とは公私いはずれかでトラブルを抱えていて、誰もが動機を持ちうるとわかつた。

同僚Aは被害者の後輩であり常日頃陰湿ないじめを受けており、憎しみをほのめかしているのを別の同僚が聞いているという。

同僚Bは過去に被害者と交際関係にあり、ひどい振られ方をして恨んでいたそうだ。

同僚Cは仕事上で被害者と度々揉めており、上役に当たることもありしぶしぶ従つてゐる。今回の商談でもつっこみの間口論になつたらしい。

各人の荷物をまとめると以下の様になる。

被害者：着替え、化粧品、ノートPC、財布、携帯電話、毛糸のマフラーと手袋

同僚A《女性》：入浴・洗面用品（ボディタオル・ソープ・洗顔料）、着替え、化粧品、ソーラーイングセット、財布、携帯電話、ノートPC、フュイクファーの耳当てに毛糸の手袋

同僚B《男性》：着替え、筆記用具（シャープペンシル・消しゴム・ボールペン・メモ用紙）、財布、携帯電話、ノートPC、毛糸のマフラー・手袋

同僚C《男性》：着替え、デジタルカメラ、毛糸の帽子と豚革の手袋、財布、携帯電話、ノートPC

これに補足事項として4人それぞれの携帯電話の通話記録なども調べたが、犯行当日に被害者に連絡を取ったのはAが午後8時半に彼女に電話したのが最後である。しかしこの時間以前にBもCもそれぞれ電話を掛けており、社用電話私用電話いずれにも疑わしいメールや記録めいたものはない。

被疑者たちは警察の質問に対しても次のように答えていた。

A「それは確かに　さんは厳しい先輩でしたけど、だからといってどうこうしようなんて思いません。……え？　なぜ入浴用品を持っているのかですか？　私、敏感肌なんでホテルのアメニティがどうも合わなくて。いつも小分けにして持ち歩いているんです。とにかく、昨夜は疲れていましたし10時にはベッドで休んでいましたよ！　8時半に食事からここに戻る前には近くのコンビニに行きましたけど。皆さんとは5分遅れ位でホテルに戻りました。電話は、さん何か要るものあるかなと思いまして……よく、後で文句言われるんです。気が利かないとか。でも断られましたけど。……何を買ったかですか？　アメとか、チョコレートに缶コーヒーです。疲れた時にと思って。売店のものが気に入らなかつたんです。お疑

いでしたらレシートをお見せしましょうか」

B「もうあいつとは終わつたし、大体があんな女殺す価値もありませんよ。それに俺、次の辞令で別部署に移動予定だし、栄転なんです。どうしてわざわざそんな大事な時期に、殺人なんて。そりやあ確かにこの出張は正直イヤでしたよ。3日間ほぼあの女と顔付き合わせてましたから……もつとも、それは他の2人も同じですがねえ？ 昨晩の外出？ しませんでしたよ。10時過ぎに1階の売店前の自動販売機でペットボトルのジュースなら買いましたけど。…見せてくれと言われましても、もう飲んで捨ててしまったので良ければ」

C「…はキツイ性格だし、まあ仕事ではいつも衝突していましたね。今回の企画だつて、最初は俺が主導で進めていたのに、結局アイツに奪われて……でもそんなのいちいち気にしていたら生き残れませんよ。外出？ ホテル内でちょっと迷ったぐらいで、ずっとホテル内にいました。残念ながら、食事から戻つてからは一人だったから証明は出来ませんが……え？ 何で迷つたのかつて？ 実は寒さのせいかトイレの水の流れが悪くて、共有のトイレを探していました」

刑事はそれぞれの証言の裏を取りにコンビニエンスストア、売店などに向かつた。

コンビニのレシートは時間帯も印字してあり、店員も客が少なかつたので彼女のことを覚えていた。最初パック飲料を物色していたが、きびすを返して缶コーヒーと菓子類を持ってきたという。

売店は9時までだつた為に証言は得られなかつたが、部屋に捨ててあつた空のペットボトルと同じメーカーの飲料は確かに販売機でも売られている。Bの指紋も確認された。空のペットボトルからは不審な物質は何も発見されなかつた。

そしてこの部屋のトイレの水の流れが良くないことも実際に証明された。スーツ姿で建物端にある共用トイレに向かってうろうろ歩く彼が、館内数箇所ある監視カメラにも午後7時20分と同25分、10時35分と同40分の計4度映っている。

同様に他の2人も、Aは8時40分Bは10時05分と同10分に廊下を歩く姿が記録されていた。しかしここでまたしても警察は壁にぶち当たる。

肝心の被害者の部屋の廊下も確かにカメラは映していた。死亡推定時刻の少し前、被害者は自ら戸を開いてある人物を招き入れていたのだった。

頭に布のようなものを巻いた、部屋に用意されている浴衣を着た人物を。

厄介なことに背の高さは3人ともほぼ同じ。Aが少し華奢ではあるが、それ以前に画像の人物はその3人の誰よりも太って体格が良かった。

どうにも決め手に欠けて刑事がもう一度被害者の泊まっていた部屋を眺めていたその時、彼はゴミ箱に目を留めて目を剥いた。

さて、この事件の犯人は一体誰なのか。そして凶器はどこへ行ったのか。

ちなみにそれぞれの部屋にほとんど備品を使用した形跡はなく、ゴミ箱にいぐばくかの千切れた紙ゴミがあつただけである。冷蔵庫の中も空のままだった。

「これは計画的な殺人だ！ 昨日今日で用意されたものではあるまい。恐らく犯人は、事前に綿密な調査をした上でここを犯行に選んだのだ」

どうやら刑事にはわかつたようである。

彼は一つの仮説をもって、この後ホテルにある作業を行つた。

そしてやがて凶器が何かを知ることとなる。

後編に続く

後 謎の解明に至る経緯

刑事は一体誰が犯人で、何が凶器だと気づいたのか。真相を語るために、ここでは彼の視点で思考の経路を辿ることとする。

寒冷地で起きた殺人。現場に赴いた彼を待ち受けていたのは深閑とした寒さと、雪に塗り込められた白の世界である。だがその時は特に気に留めることもなく、こんな町で暮らすのは大変そうだ、その程度の印象しかなかつた。

しかし遺体を目の前にして、彼はある一つの疑問が真っ先に浮かぶ。

この女はなぜ、こんな寒いのに下着姿なのか。そして床に零れた液体の意味は何なのか。

湿った床は当初、コップの水を零したからだと思っていた。

その後調べは進み、凶器が見つからず彼が行き詰つてしまつても、最初の疑問は第一印象のごとく頭の片隅から離れなかつた。犯人は元恋人のBだろうか？ 彼ならばそう遠慮しないで下着で応対するだろうか？

では逆に、「必ず服を着て応対するのは誰か」と考えた。しかもこれは、考えているうちに別の方に向くこととなる。「誰だったら、夜の11時に部屋の扉を開けるだろうか？」と。

刑事は男だったが、どうやら気が強い女だったらしい被害者心理を追つてみた。

いじめていた後輩か。

ひどい振り方をした元恋人か。
仕事上で衝突している部下か。

女性心理としてもし何らかの理由で未練を残しているのだとしたら、Bを迎える可能性もないわけではない。

ここで彼は室内の様子をもう一度観察した。備えてあつた浴衣には特筆すべきものが見当たらない。つまり使われた形跡がなかつた。スーツケースに詰め込まれた着替えを確認するものの、このホテルには1泊目だが出張自体は3日目ということだ。ホテルクリーニングを使っていす、着用済みの衣服が入つていたとしても一概にどうとは言えない。

次に彼は、暖房で温まつた室内に目を向けた。

一晩中暖房をつけていたのなら、室内は乾燥するのではないか。にも関わらず、床は湿つている。犯行時刻から警察が来るまでの間に、すでに9時間近く経過しているというのに。

ただ、遺体の身体は床に接地している部分以外はそう湿つていなかつた。

これと凶器が周辺のどこからも見つからないことをかんがみて、彼は一つの仮説を立ててみた。

液体はもしかすると、もつと大量に零れていたのではないかと。しかし大量に水を零す犯行のメリットが見つからない。彼が周囲をさらに見渡していく時に、窓の外に積もつた雪が目に入った。もしかしたら……。

しかしその思いつきはどうにも突飛である気がしてならない。

備品はほとんど使用された形跡がないと、さきほど3人の部屋は確認済みだ。

それでも一応と周囲の雪の様子を調べてみるものの、結果ははかばかしくなかつた。雪に残した足跡を消すのは困難だし、もし非常口から身を乗り出して手だけを出したとしても、後を手で撫でて均した可能性もある。

非常口と言えば、と彼は三人及び犯人が映つた監視カメラの映像をもう一度見直した。

廊下の様子を映したこの映像は、文字通り「廊下しか」映していない。

だから事件当夜に限つて言えば彼らは、前述の通りに撮影されて

いるのだ。

犯人が頭部を布のようなもので隠していたのは、監視カメラの位置を意識した行動と思われる。であれば、体格が3人と合致しないとしても、部屋にはバスタオルにバスマットにフェイスタオルなど、浴衣の下に詰め込めるものは色々あるだらう。何だったら自分の着替えを使つてもいい。

この点では可能性は3人ともにあり、しかし外に出る事が出来たのはこの時間帯では恐らくCのみだ。しかし、Cとしてもどうやって凶器を「作成」したのだろうか。

そう、刑事は凶器に使われた鈍器を『氷』だと考えたのだった。この寒さならば水道水を何らかの容器に溜めて外気に置くだけで、数時間あれば凍るだらう。大きさはそつ、ペットボトル程度あれば充分人を殴れるに違いない、と。

鑑識の結果からもそれは裏づけされたと思つた。ポリエチレンは今や色んなものに使用されているが、液体を漏らさず溜めるに、これ以上のものはない。そこまで考えて、刑事はやはりB犯行説を却下せざるを得なかつた。彼の部屋に置き去りにされた空のペットボトルは蓋もついたままで、不審な成分は検出されなかつたのだ。氷を氷だけで使用しなければ、容器に必ず血痕が付いているからこれはおかしい。口が狭いペットボトルでは、切り開かずに取り出すのは困難だ。

刑事は鑑識官にポリエチレンを使用したものについて他に何があるかを尋ねた。

「ビニール袋、ラミネート素材、バケツなどのプラスチック製品、梱包用テープなど用途は広範だね」

ビニール袋……刑事はAがコンビニで買つた時にもらつたであろう買い物袋を思い浮かべた。そういえば、部屋の「ミニ箱には紙「ミニ」しかなかつたということは、まだ当人が品物を食べずに袋ごと持つているのだろう。

しかしあんなもので液体を固めるのは無理だ。外側に何か硬い壁

がなければ。

やはりペットボトルなのだろうか。部屋にあつたあればダミーで、別途用意して何らかの方法で始末したのだろうか。例えば、アメニティの剃刀などで。Aは剃刀を使つていないが、あらかじめソーキングセットの鋏で口などに切れ目を入れてその下まで水を入れれば、切れないこともないかもしない。

そうなるとBである必要はなく、また3人の誰しもが嫌疑の対象となつてしまふ。

どうにも決めかねて途方に暮れ始めていたその時、被害者の部屋のゴミ箱の中の、千切れた紙、ゴミを見て彼はふと思った。

何がが引っかかる。ゴミ……コンビニ……缶コーヒー……ペットボトル飲料……。

液体を留める器。

コンビニ店員は最初、Aが何だと言つていたか。

『最初パック飲料を物色していたが』

あれならば何かを使って切り離すのではなく、力を入れれば指で千切ることも可能ではないのか。

そして千切つた後は？

ゴミ箱の紙ゴミは本当の紙ゴミで、紙パックのゴミではない。

「これは計画的な殺人だ」

鑑識官に再度問い合わせすると、予想通りの結果が返つて來た。

「お尋ねの通り、牛乳パックなどの紙の加工にもポリエチレンが使われています」

刑事が行つた『あること』とは、問い合わせの他に『Cの部屋のトイレの詰まりの原因を調べること』と『過去の監視カメラの映像を冬限定で調べること』だつた。

それによつて、トイレの排水詰まりの当日発生のもので、原因が

1リットル飲料の紙パックを破つて流したせいだと判明。

また、ほぼ一週間前、監視カメラにて同様に「一度非常口に向かって歩く、頭部をやはり布で隠した浴衣姿の人物の映像も確認された。もつともこの映像では下に重ね着などはしていなかつたらしく、身体的特徴からCであると判別がついた。この時、同一と思われる人物がサングラス姿で他の時間帯にも映つてゐる。

Cの供述に拠ると、被害者の女性に殺意を抱いたのはこの町に来る以前の話だつたという。

「……連絡はもう昨日この町に入る前に済ませていました。仕事の内容でどうも気になる点があるが、他の2人がいない所で話したい。そう言ってあの夜、あいつの部屋に入りました。着膨れした様子に驚いていても、自分の興味のないことには口を挟むような女じやありません」

紙パックは最初から畳んでカバンの中に忍ばせてあつたという。チェックインしてすぐに水を入れて非常口の外に放置、犯行の少し前に回収。一度パックを開いた状態で氷を包み、その上からさらに畳んだバスタオルで氷に直接布が当たらないようにくるんで懷に忍ばせた。切れ目を合わせて取り出しやすくすれば、体温で溶けるのも防げたという。犯行時には革の手袋を着用していた。

「殴つた後、氷はそのまま放置しました。シャツにスカートを履いたままでしたが、洗濯物を思い出して脱がせました。着ていた方が盛大に濡れてしまうと思って」

そして衣服を畳んで彼女の鞄にしまうとコップに水を少し汲んで倒し、暖房をそのままに再びタオルと紙パックを懷に入れ部屋を出た。来た方角とは逆に回つて、カメラの死角に来たのを確認してからそれを取り出して肩に掛けるなどしてまた様子を変え部屋に戻つたといふ。

紙パックは戻つてから細かく破いてトイレに流したが、まさか凶器を特定されるとは思わなかつた、とも。

「殺してやりたいとは手柄を横取りされる度に思つていきましたが、直接はBの昇進でしょうかね。本当なら俺がとっくに出世しているはずなのに、いつまでこつしてこの女の餌食になつていなくちゃならないんだつて……企画は最初俺が立てていましたから、この町についても調査する機会はあつたんです。それで」

完璧な計画だと思ったのに ぼそりと呟いてCは頑垂れた。

実は俺が掴んだのは凶器がなんであるかということ、Cが以前にこのホテルに来ていたという事実であつて殺人の証拠ではない。にも関わらず、事実に推測を混ぜたものを話して理由を問い合わせただけであつさりとお前は陥落した。

そんなところが、被害者にいつもしてやられた原因なのかもしきないな

刑事がそう告げると、肩を震わせるばかりでCの答えはなかつた。

後 謎の解説に対する総論（後書き）

「」お読みくださいわったかた、本当にお疲れ様でした。

提示編については意図的に書いていないものとそうでないものが混在し、出来るだけ後者が出来ないよう何度も推敲は致しましたが可能性として別のものの方が信憑性が…などこうこともあるかもします。

であれば、全ては私の未熟と致すところです。

解説編に付きましたが、それはから見るとシシコリビングがあるとは思いますが、もし良ければ遠慮なく申し出でていただけるとむしろ喜びます。

そして、やや「」おおき合へてやせこまじてあらがとひらざりあります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8487z/>

消えた凶器

2011年12月28日22時49分発行